

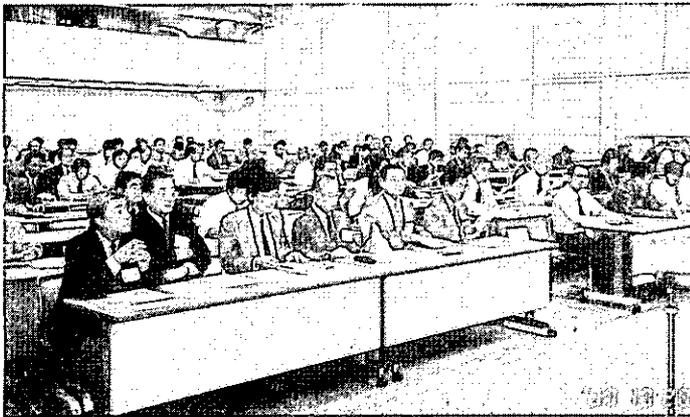
広報

# 環境カウンセラーちば

第11号  
環境カウンセラー  
千葉県協議会  
会長：村上利子

環境カウンセラーは、環境庁に認定された環境の専門家です。  
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

## ISO14001 認証取得後の活動に焦点をあてて 企業環境セミナー開催



10月20日、当協議会と千葉商工会議所の主催で、エコメッセちば2000の賛同行事として、企業環境セミナーが、シャープ幕張ビル2階多目的ホールにおいて、開催され、当日は小雨ながら200人を超える参加者を得て、盛大なシンポジウムとなりました。

筆者は、今回このシンポジウムの基調講演とパネルディスカッションのコーディネータを仰せつかり、どうかこの大役をこなすことができました。講演いただいたパネラーの方々、本協議会の皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。今回の体験を拙いながら文章に残し、来年以降のご参考になればと思います。

今年のシンポジウムは「ISO14001 認証取得と環境経営」と題し、昨年のシンポジウムでは、これから認証を取得しようという企業を主な対象としたのに対し、今年は認証取得後の活動に焦点を当て、取得後のメリットやデメリットについて発表や討論がなされました。パネラーとしては以下の多彩な機関を代表する方々にご参加いただくことができました。各パネラーの講演内容から私が強く印象に残ったポイントを紹介します。

千葉県環境研究所 主席研究員 岡崎淳氏

職員のほぼ全員が環境問題の研究者とあって、マネジメント以前に大気汚染と騒音、温暖化とオゾン層破壊といった環境影響の評価（ランク付け）で喧喧諤諤の議論となり、四苦八苦の上で収拾、認証取得にこぎつけた。自治体や研究所から認証取得の参考になったとの意見が寄せられました。

シャープ㈱ 環境安全本部 恵飛須興二氏

グリーンファクトリーやグリーン調達、ゼロエミッション、家電リサイクル法対応など時代の最先端を紹介、さすが日本を代表する企業の一つと心強く思われました。

㈱太陽社 専務取締役 片岡信行氏

お菓子づくりの毎日で、認証取得を目指すまでシステムや文書類などとは縁の遠かった従業員達と、作業の環境側面洗い出しなどの悪戦苦闘の末、認証取得にこぎつけたとのこと。システム作りのメリットは大きく、中小企業の認証取得の参考になったと好評でした。

大平興産(株) 代表取締役社長 山上毅氏

社業である「産業廃棄物の最終処分」そのものが環境であり、社としても率先して環境改善に取り組むべしという方針でやってきており、その延長線上での認証取得であったとのこと。トップダウンでのマネジメントシステムへの取り組みの報告も貴重でした。

各パネラーの講演の後、パネルディスカッションが行われました。事前に頂いていた質問と当日の質問を中心に、活発な意見交換がなされました。参加者の関心は、ISO14001 規格が要求している「継続的改善」を、どのように進めていくのか、またその改善テーマ（環境目的・目標）を継続的に、どのように設定して行くのか、といった点にあったと思います。

ISO14001 規格は、環境パフォーマンスの継続的改善を求めているのではなく、継続的な環境マネジメントシステムの改善をつうじて環境パフォーマンスの改善を図ることを期待していますが、この点の理解不足や認識の相違があるように感じました。

また、著しい環境側面として認識した事項を環境目的及び目標に掲げ、環境マネジメントプログラムとして改善活動を展開していくものと、目的目標に掲げず

日常の運用管理で環境パフォーマンスの維持・改善を図るものと混同されがちでした。そのため、省電力といった目的目標に対し、年々照明を暗くしたり、冷房の温度を下げたりするものと考え、5年後、10年後は一体何をしたら良いのか、といった疑問があるように見受けました。

我々環境カウンセラー千葉県協議会 EMS 支援センターとしては、主に ISO14001 の認証登録時のサポートを意図して活動を展開していますが、これと同様に認証登録後の活動に的を当てたコンサルティングも重要であり、またそれを希望する中小企業も少なからずとの印象を抱きました。現在、認証取得時におけるコンサルティングを専門とする会社は数多くありますが、取得後の継続的改善を支援するコンサルティングサービスは、収益性などが乏しく、事業としてのメリットが少ないため、これを専門に行う会社は極めて少ないと思います。したがって、我々のような非営利で公共性を目的とする立場としては、これを活動の重点テーマとすることが相応しいと考えました。

宮村 庸一（環境カウンセラー）

（環境マネジメントシステム主任審査員）

## ☆塚田公民館環境フェアに参加して☆

9月3日船橋市の塚田公民館で開かれた環境フェアに、環境カウンセラー千葉県協議会として県内関連団体への初めての試みとして、環境カウンセラー制度や環境マネジメントシステム支援センターの活動を広く一般社会の皆様方に知っていただく目的で、関連のパネル4枚と当会のパンフレットを陳列し参加者に説明した（担当林正徳、野口康男）。更に、今回初めての企画として、千葉県内の生き物、ザリガニつり（250匹）、クチボソすくい（60匹）フナすくい（45匹）ナマズすくい（15匹）などを行い、幼児から小・中学生とその家族合計250人ぐらい参加者があった（担当田中茂、林正徳）。色々と反省点もあるが、今回の経験も生かして、来年度のエコメッセなどのイベントにも参加したいと考えている。（田中茂）

各地で開かれている環境フェアのほとんどが自治体（市や県）主催であるのに対し、これは民間の環境グループ「船橋市環境にやさしい会」が中心になって、地域の公民館、自治会が協力して作り上げたとのこと。もちろん、船橋市には市が主催する環境フェアもあるのだが、環境活動を市民にアピールしたり、環境グループ間の交流も多いほど良く、特にこのような地域住

民も参加しての場は貴重だと感じた。

出展は市内の環境団体、子どもエコクラブのほか、企業による発泡スチロールの縮小機械や生ゴミ消滅機の展示などもあり、多くの市民が訪れ、活気ある環境フェアであった。「環境にやさしい会」の活動が地域に支持されていることがうかがわれ、非常にうらやましく、参考になった。

中でも驚いたのは、市は全く援助していないと言いつつも、廃棄物課、エコシティ室、環境保全課がそれぞれ独自にコーナーを受け持ち、環境団体と同じように市民にアピールし、交流していることだった。

私の住んでいる八千代市は、財政難から環境フェアが実施されなくなって、今年で3年目になる。行政に頼らず、自助努力でやってほしいといわれ、昨年からは産業祭りの片隅で2グループばかりが環境活動の発表を行っているが、環境フェアをやっていたときに比べて、目立たない感は否めない。

船橋市は、環境カウンセラーの職員が3名いるためばかりではないだろうが、お金を使わずに上手に環境を市民にアピールする方法を心得ているように思われ、これもまた、うらやましく思ったのである。

（佐藤 素子）

## ● アルメニア再訪

小角 浩 (環境カウンセラー)

先頃、一年振りにアルメニアを訪れる機会を得た。前年、JICAによるアルメニア共和国への専門家派遣事業の一環として、[生物多様性保全に係る技術指導]の任を帯び 同国自然保護省に派遣された際、二ヶ月余りの滞在予定が、帰国直前に発生した同国会会[議場乱射事件]のトバッチリで、急遽、帰国させられた感が残っていただけに、今回、2週間の訪問ではあったが、個人的にも有意義な旅行であったと言える。

前回、身をもって知らされたのは、ソ連邦の急激な崩壊が、構成国にとってもまさに青天の霹靂のショックであり、計画経済の下で粛々と行われてきた基盤的な生産・経済活動は文字どおり根底から崩壊し、市民生活はその拠り所を失った状態に陥った、ことであった。

いわば、半世紀以上前、敗戦直後の我が国の状況と相通ずるものがある。ソ連邦科学アカデミーに所属していた科学者にとっても、つい4,5年前までは研究活動の維持以前に、生活基盤の確保にこそ追われることが多かったそうである。

この一年、明らかに街の表情は一段と明るくなり、物資の流通も豊かになったことが感じられるが、聞くところによると、その割に税収は伸び悩み、ニューリッチ層に富が偏在しつつ在るとか。

アルメニア共和国は旧ソ連邦の内、黒海とカスピ海に亘る大コーカサス山脈の南、トランスコーカサス地方に在り、グルジア、アゼルバイジャンと共に、所謂コーカサス三国の一つとして知られる国である。

BC 9世紀の建国以来、「ノアの箱舟」で知られるアララト山を中心に、アナトリア高原の大半を制し、4世紀には世界で始めてキリスト教を国教とした歴史を有するものの、[Cross Road in the World]と称され、東西南北それぞれの勢力の行き交う地域だけに、古くはアレクサンダー大王からチンギス・カーン、更にはチムール、ペルシャ(イラン)に征服され、近世においてはロシアの南進政策により併合されるなどの歴史を重ね、更には第一次世界大戦で民族を二分しての参戦となりながら、終戦処理の結果、民族のシンボルであるアララト山をトルコ領に組み込まれたまま今日に至っている。

現在の国土はアナトリア高原北東部の一角を占め、アララトバレーの北半分から、さらに北側の小コーカサス山脈にいたる約3万平方キロに凡そ370万人、いわば長野、山梨、岐阜三県の面積に横浜市の人口をもって一国をなしている。

国土の平均標高1,800メートルの山岳・高原の国。内陸乾燥地帯の生態系は、砂漠・半砂漠から山地ステップ、

森林、高山・亜高山草地まで様々な自然環境があると同時に、[Cross road]なるが故に、ヨーロッパ、アジア、北アフリカの生物相が混在し、生物多様性の宝庫として知られる。

さらにこの地方は世界の有用植物原産地の一つとしても著名であり、ブドウをはじめ、コムギ、モモ等の原種が現に自生していることからしても、保全すべき絶対的価値は高いと見なされる。

ソビエト時代に累積された科学的知見は生物分野においても高度のものが在り、記録、資料の類は膨大なものがある反面、データのコンピューター処理において遅れをとっている面があった模様である。

この点、JICAによる機材供与の効果は目覚しく、自然保護省における[生物多様性国家戦略]策定に大いに役立ったほか、植物研究所、動物研究所におけるレッドデータブック増補改訂作業にフル活用されており、昨今批判の多い ODA 予算もその使途次第と思ふことしきりである。

カウンターパートであった自然保護省のB次官は大学教授に転進し、昨年、直接対応してくれたN国国際協力局長は職員減をカバーして、今週はカザフスタン、次週はグルジアとまさに東奔西走の忙しさであったが、研究者何れもが明るく前向き思考でことに当たっておられることが心強く感じられる。

然しながら、大学、大学院卒業者の研究機関への就職状況は必ずしも芳しくなく、将来へ向けての研究機能の維持・継続の面からも研究費の助成・奨学金制度の創設などが検討されているところである。この点、今回ご案内させて頂いた N 財団会長が精力的に関係機関・研究者と意見交換された結果が、両国の将来に実を結ぶことを期待している。

昨年は本業の他に、エコツーリズムに関する質問、相談が多かったが、この分野は予想以上に進捗し、幾つかのグループが立ち上がり、それなりの対応が進められつつあることは喜ばしいと同時に、関係者に運営を誤ることの無い様望む次第である。この点、世界で始めてキリスト教を国教とし、独自の言語とアルファベットに誇りを持つハヤスタニー(Hayastany・アルメニア人)に期待し得るものと確信する。何故なら、彼らこそ「NOAH Descending from Mt Ararat」の地に住み、ノアが最初に植えたと伝えられるブドウから、ワイン・コニャックを造り続けて来ている民なのだから。

エレバン最後の夜、関係者一堂に会し、昨年述べる機会を失われた分を含め、心置きなく意見交換しつつ、密かにノアへの感謝も込めて、ようやく一つの任を終えた感を得、帰国の途についた。

## 「こども環境相談室・相談員として頑張っています。」

林 正 徳 (環境カウンセラー)

私は八月以来週二回(火、木の午後)新橋の虎ノ門まで出かけて「日本環境協会こども環境教室」の相談員の仕事をしています。

電話・ファックス・手紙・Eメールあるいは直接訪問等、様々な手段で寄せられる子供さん達(主として小・中学校の児童・生徒)の質問に対して回答を出し、「環境問題に対して正しい認識を持ち、できれば行動してもらおう」という意義深い仕事ではありますが、なかなかしんどい仕事です。

子供さんが相手だから、そんなに難しく考える必要がない「気楽な稼業」だ、と考えるとするとこれは間違いで、正確にそれぞれの環境問題を理解しておかないと、子供さん達によく分かってもらえません。

電話を通じての会話では話しの受け答えの様子である程度想像が着く様になりました。良く理解してもらったときは相手の声の弾みが違う様に感じられるからです。分かってもらえると、こちらも嬉しくなり段々話しが発展して行きます。ただ電話でケリが付くケースは少なく適切な資料を送って理解不足を補うケースが殆どです。

自分ではよく理解しているつもりの問題でも子供の立場で考え直して見て回答を分かり易く組み立てなおしておく必要がある様です

この相談室は、今年の5月に開設されたそうで、現在環境カウンセラー5名(常勤3名、非常勤2名)で回答にあたっていますが、12月12日迄の回答実績は訪問24件、電話133件、手紙84件で、10月から急に質問の数がふえてきました。これはこの時期、小学校の総合学習に環境問題が取りあげられている様で、難易取り混ぜての活発な質問が次々と飛び込んできます。

質問には出来るだけ丁寧に答え、できたら環境問題に「持続的な関心」を持ってもらい、自分達で何が出来るかを考えて行動に移す動機付けができれば、とややオーバーな期待を持って頑張っています。これは私だけの考えではなく、相談室全体の考えでもあるようです。

なかなか自分でも満足できる分かり易い回答がまらず、イライラする事もありますが、回答に対するお礼状が届いたり、元気な声でお礼と共に新しい質問の電話がかかってくるとすっかり元気になり、イライラも吹っ飛んでしまいます。

疑問・質問の新しい展開は我々に対する勲章の様な

ものです。

環境協会をご存知の方が多いと思いますが、エコマークの認定、こどもエコクラブの育成、環境カウンセラーの登録・研修等の環境関連の事業を巾広く推進している協会です。

トップの方々とも気軽に話しあえる若々しく明るい雰囲気、気持ち良く働ける職場です。

又職場内はエコ商品の可能な限りの使用、所内資料の徹底した裏紙使用、リサイクルを意識した「ごみ」の分別回収等々、協会全員による環境改善活動が活発であり、訪問研修者に強い印象を与えている様です。

われわれ相談員も2001年早々からは、一人一台ずつパソコンを持つ様になり、益々情報の収集、分かり易い資料作り、回答内容のデータベース化等々により一層の質の向上と能率化にチャレンジする予定です。

直接業務を支援してくださる職員の方は「こども環境相談」や「環境問題」の専門家であり、業務の効率化に意欲を持って取り組んで居られるようですから、ちょっと肩のこる時もありますが、つつい負けない様に「慣れない仕事」に頑張ってしまう。

現在の5名の相談員のうち3名が(田中、平沢、林)千葉県協議会の出身者であることも私にとっては心強いかぎりです。相談員どうし、お互いに自由闊達に議論出来るあいだがらで、頭も少し柔らかくなって来たような気がします。

協会の実態に触れてみると、環境教育に活用可能な各種教材の存在等、実務的に得る所や、エコマークのことなど今まであまり関心を持っていなかった事で、啓発されることが多く、「井の中の蛙」も少しは視野が広がって行く感じです。

そんなわけでこの仕事、皆様がたも「環境カウンセラー」として「一度はトライしてみる価値のある仕事」ではないかと考えたりしています。

日本環境協会の所在は地下鉄銀座線「虎ノ門」駅から表通りを新橋方向に歩いて3分で、大変便利な所ですので、気軽にたちよって様子を見て頂きたいと思います。

子ども環境相談室の内容については、日本環境協会のホームページ内の下記アドレスでご覧下さい。

<http://www.jeas.or.jp/news0008.html>



# MSDS

## 化学物質等 安全データシート

MSDSとは、危険有害な化学物質について安全な取扱いを確保するための基礎資料として、メーカーからユーザーに提供されるものであり、化学物質による事故を未然に防止することを目的としている。

MSDSの起源は、薬や染料の情報を口頭で伝達していた時代に遡り着く。文書で残っている最古のものは、エジプトの墓の壁やパピルスに記され、4,000年以上も前だという。名医と言われたImhotepの処方箋なども見つかっている。ギリシャ人は、実験結果等も記録しており、日常使う天然化学物質についての知識も増した。紀元前3~4世紀のアレキサンドリアでは、新薬、染料、漂白剤、他の有機、無機化学物質に関する実験も行っていたという報告がある。

戦後の米国では、化学プラントの作業者のために、Chemical Data Sheet等が発行された。1950年代には、海・港湾作業者のための法律が出来、1970年に、産業全般に適用される法律が制定され、職業安全衛生管理局(OSHA)が労働省に創設された。1983年の改定で、有害化学物質の輸入・製造業者のMSDS添付が、又経営者の従業員に対する、トレーニング等必要なプログラムの履行義務が、それぞれ1985年11月、1986年5月25日迄に義務付けられた。

現在、アメリカの大学や企業では、専攻や業務内容に拘わらず、Hazard Communication(危険情報の伝達)の中で、MSDS及びその関連事項などのトレーニングが必須となっている。これは、『Hazard Communicationを受講した人は、自らの安全や事故に対する責任があり、そのような場合会社側は関知しない。』といった意味合いもある。

日本のMSDSに係る規格は、1992年の労働省告示(第60号)で始まった。翌年4月、厚生省、通産省及び労働省は、行政指導による、安全性データシートの作成・交付を主体とした化学物質の安全性に関する情報提供制度を実施し、通産省は、(社)日本化学工業協会(日化協)に、安全性データシートの収集、内容の充実・調整等を含む情報提供体制の整備を図る方策の実施を要請した。日化協は、『製品安全データシートの作成指針』を策定し、日化協方式のMSDS記載法を作成した。

2000年には、ISO11014-1を翻訳したJIS Z 7250が制定され、下記16項目の情報の記載などが規定され

た。又2000年4月、改正労働安全衛生法が施行され、MSDSによる632物質の情報提供、法令等の周知が規定された。また、昨年7月に公布されたPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)により、平成13年1月までに、354の第1種指定化学物質と81の第2種指定化学物質のMSDS提供義務が通産省令で制定される。こうしたことから、最近ではMSDSに関するセミナーなどが多い。

MSDSには、化学物質の製造者や輸入代理店(メーカー)側の責任とそれを使う(ユーザー)側の責任がある。メーカー側は、環境・健康・安全(EHS)情報を網羅したMSDSを提供することが規定されており、MSDSの受領者であるユーザーは①リスク評価に対応して、作業環境の中で必要な予防手段を講じる②作業場所ごとの危険有害性について取扱者に情報を与える③適切な方法で取扱者に情報を与えることなどがある。もしメーカー側がMSDSを提供しなかったり虚偽の情報を記載するような場合、PRTR法に基づき、通産大臣により勧告が出され、従わない場合は、その旨公表される。

MSDSは化学物質に関するデータであり、EHS管理の基礎的な情報の一部に過ぎない。しかし、ユーザーにとっては有用な情報で、メーカー側の対応やMSDSに対する不満が、改善されていけば有難い。

MSDSの作成者は、製造から流通に至る段階で、化学物質等の危険有害性や取扱い方法に関する情報や知見を多く有し、且つ危険有害性の分類や取扱い方法に関する法規制の動向や内容の理解といった法律的な知識も要求される。現在労働省では、人材を確保するために、中災防などの機関を通し、人材の要請、有害性情報の提供等の支援を積極的に進めている。化学物質の管理、MSDSなどは、リスクマネジメント、積極経営の観点からも、環境カウンセラーの腕を揮える分野ではなからうか?

### MSDSに記載すべき項目

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1. 化学物質及び会社情報   | 2. 組成、成分情報 |
| 3. 危険有害性の要約     | 4. 応急措置    |
| 5. 火災時の措置       | 6. 漏出時の措置  |
| 7. 取り扱い及び保管上の注意 |            |
| 8. 暴露防止及び保護措置   |            |
| 9. 物理的及び化学的性質   |            |
| 10. 安定性及び反応性    |            |
| 11. 有害性情報       | 12. 環境影響情報 |
| 13. 廃棄上の注意      | 14. 輸送上の注意 |
| 15. 適用法令        | 16. その他の情報 |

## ☆総会&環境セミナーのお知らせ

日時 2月11日(日) 13時30分~17時  
 場所 東天紅(千葉市コミュニティセンター上)  
 13時~ 総会  
 15時~ 第1回環境セミナー  
 講演予定

千葉県の産業廃棄物対策  
 千葉県産業廃棄物課副主幹 根本 久美子氏  
 地球温暖化防止対策(省エネナビの取り組み)  
 当協議会会長 村上 利子氏  
 ISO14001 認証取得の支援状況  
 EMS 支援センター長 林 正徳氏

総会終了後、懇親会も予定しています。

環境カウンセラー千葉県協議会は、環境カウンセラー以外の方も準会員として入会できます。関心のある方は、是非ご参加ください。



### 谷津干潟の冬鳥たち

谷津干潟自然観察センターボランティアスタッフ  
 宮村 庸一

谷津干潟は、今北からやって来た鴨が見頃です。秋に渡ってきた時は、オスもメスも茶色の地味な羽でしたが、お見合いのシーズンを迎え、オスはきれいな姿に変身しています。

オナガガモは尾羽がピンと張った優雅な姿に、コガモは目の回りが光るような緑色に、ヒドリガモはおでこが輝くようなオレンジ色に、それぞれメスの気を引くため、精いっぱいのお洒落をしています。

そして間もなくオスは求愛のダンスを始めます。めでたくカップルになった二羽は、谷津干潟で海藻などをたっぷり食べ、春になると北の国へ旅立ちます。カップルは北の国で卵を生み雛を育て、秋にはまた谷津干潟などにやってきます。

太古から続いてきたこの営みも、干潟や水辺などが無くなっては途絶えてしまいます。彼等を見ていると、人間の身勝手に地球を変えてはいけない、と強く感じます。

### ☆事務局から

1. 環境白書 CD-ROM を入手しました。
2. ベイ FM 寄付金で、水質検査キット(バックテスト用器具・pH 計・電気伝導度計など)を購入しました。
3. 前回、お知らせの省エネナビは千葉市内小学校 8 校と中学校 2 校での設置が完了しました。今後は千葉市在住の環境カウンセラー数名が各学校の省エネ学習の相談にあたります。  
CD-ROM、水質検査キットの利用をご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

### ☆EMS 支援センター

1. 本年度エコメッセ企業環境セミナー参加企業一社への支援が決まりました。
2. 東金市九十九里 ISO ネットワークを足場にした支援センターの活動が始まりました。

### ☆広報へのご意見、原稿の募集

広報へのご意見、環境カウンセリング実施例、重大な環境情報などを、お寄せ下さい。

### ★賛助会員募集

環境カウンセラー千葉県協議会に賛同する個人、団体の賛助会員を募集しています。

会費：個人 1 口 3,000 円 団体 1 口 10,000 円

### ☆広告募集

当広報紙に広告を掲載しませんか。環境カウンセラー千葉県協議会会員、準会員および会員等の所属する事業所の広告にご利用下さい。

標準利用料金：A4、1 ページ 1 万円

A4、6 分の 1 ページ 2 千円

### ★当会メーリングリストのお知らせ

当協議会会員のメーリングリストがあります。当会の情報伝達の能率、経費節減の観点からも会員の登録をお願いします。(会員のみ)

申込みは arimatomiho@ma2.justnet.ne.jp

環境カウンセラー千葉県協議会会報

第 11 号 (発行日 2000 年 12 月 29 日)

事務局：千葉市中央区本町 1-4-24 籠谷公輔方 Tel& Fax 043-224-4031

郵便振替口座：00110-5-34692 (会費未納の会員は、こちらに入金して下さい。)

編集：環境カウンセラー千葉県協議会・広報部(佐藤、室中、大山、久本、他)、情報部(有馬、辻川)

会員数：116 名 賛助会員：13 名

ホームページアドレス：http://www2.justnet.ne.jp/~arimatomiho/ (古紙 100%再生紙使用)

広報

## 環境カウンセラーちば

第12号

環境カウンセラー  
千葉県協議会  
会長：村上利子

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。

環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

## 環境カウンセラー千葉県協議会定時総会開催

2月11日（日）、千葉中央コミュニティーセンターで、新世紀の門出というべき平成13年度の環境カウンセラー千葉県協議会の定時総会が開催された。

当日は、会員総数115名のうち31名が出席し（委任状提出者数53名）、國廣隆紀業務部副部長の司会で村上利子会長を議長に選出して議事に入った。

まず、平成12年度の事業報告の冒頭で村上利子会長から、「組織運営については、新体制のもとに毎月運営委員会を開催して相互が理解し、助け合う雰囲気となり当協議会に元気が出てきて、他の団体や身近な地域社会との連携ができるようになってきた。

また事業推進については、諸機関のISO14001認証取得支援、自然観察会開催、各種イベント参加、各種研修会、セミナー開催や省エネナビによる省エネの啓発活動などを実施したが、それらの事業の準備と実施段階では担当者だけでなく、今後はより多くの会員の参加協力が望まれる。会員のための各種研修の場も設けてきたが、地域社会ひいては地球の環境を良くするための活動が環境カウンセラーの使命であることを忘れてはならない。」との基調報告があった。

つづいて、鈴木茂夫総務部長から、事務局、各部および環境マネジメントセンターの事業報告と、その収支決算の報告がなされた。

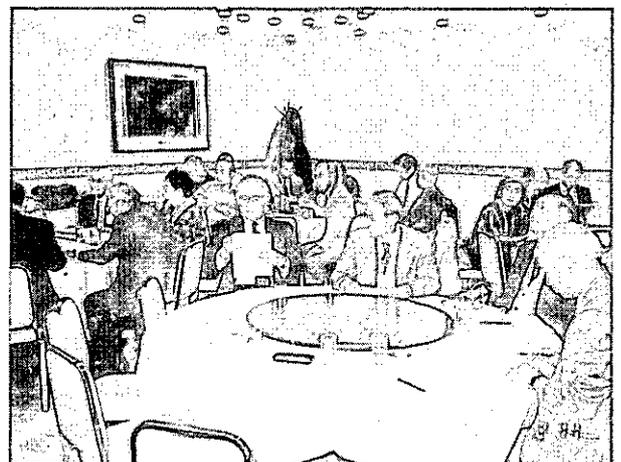
（事業報告の概要については、本号にて後述）

こうして、廣川一男監事から本会の事業および収支の状況が公正かつ妥当であるとの監査報告があり、出席者により承認された。

その後、平成13年度事業計画と予算案の審議に移り、村上利子会長からつぎのような運営方針が述べられた。

「輝かしい21世紀を迎え、本会も設立以来4年目となった。身の回りや国内のみならず地球全体での環境問題にも具体的に取り組まねばならない今日、ますます本会の社会的使命も重要になってきており、これまでの経験を生かしてさらなる活動を推進していきたい。そのためには、内部の情報連絡や交流を密にして、全会員が参画してスムーズに取り組んでいくことが必要で規約の一部改正も行いたい。

本会の事業については、平成12年度と同様の事業を計画するが、さきに千葉県の「新世紀ちば5か年計画」が策定されたので、地球温暖化防止対策や資源循環型社会の構築としての廃棄物対策に具体的に取り組むた





## 本会の年間活動報告と活動計画

### 総務部

#### 1. 活動報告

総務部の活動で目に見えるもののひとつに運営委員会の月例会開催があります。本来なら、月例会全体を総務部で取り仕切るべきところですが、当日は議事録作成のための発言速記と共に会計処理を済ませることもあり、議事進行に関して十分な役割を果たせていません。会場の確保（通常、千葉市の中央コミュニティーセンターを利用）や議事録の配信なども含めて運営委員各位に協力していただいています。

例年4月には、環境省に新しく登録された環境カウンセラーが誕生します。本会ではこれらの方々や本会の活動に賛同する方々に呼び掛け、新規会員となられた方の歓迎と会員相互の懇親を深めるために、新入会員歓迎会を開催してきました。平成12年度は5月14日の環境セミナーに引き続いて開催し、新入会員が16名出席しました。

定時総会およびこれに併せて行う懇親会も総務部が分掌する重要な活動であり、平成13年度は本年2月11日に滞りなく開催することができ、所期の目的を完遂することができました。

#### 2. 活動計画

総務部の事務分掌は、一言で表現すれば文字通り本会の活動全般に関する総務であり、本会を存続させるための多くの事務を含む重い責務を担っています。

これまでの活動を踏まえて、事務局専任を発展的に解消し、事務局の機能のほとんどが総務部に組み込まれました。そこで対外的な重要事務である外部の諸団体との連絡調整に関しては会長および副会長にお願いし、総務部は会員個人に関する情報の管理や本会各部の総合的な調整事務などを新たに担当することになりました。

平成13年度は、会員名簿をはじめとする会員情報の正確な掌握を図り文書としての整備を進め、広報の配布、情報の発信、会員相互の連携、会費の徴収などに資することとします。

また運営委員会の月例会の円滑な開催を図り、短時間で充実した委員会審議ができるように努めます。

#### 3. 各位にお願い

県央に居住される方（千葉市民を歓迎）で総務事務を担当して頂ける方は是非とも総務部に所属願います。

また総務部は、本会の設立準備段階からの記録・資料のファイリングをしています。それらの提供または貸出しができる方やそれらを利用したい方はご連絡ください。

（総務部長 鈴木茂夫）

### 事業部

#### 1) 活動報告

働きかける環境カウンセラー千葉県協会を目指して、事業展開を行ってきました。

- ① 第6回環境セミナーを開催：平成12年2月13日  
中央コミュニティーセンター（千葉市）で開催
- ② 第2回自然観察会を開催：平成12年4月23日  
昭和の森公園（千葉市）で観察会を開催
- ③ 第7回環境セミナーを開催：平成12年5月14日  
中央コミュニティーセンター（千葉市）で開催
- ④ いちかわ環境フェア：平成12年6月10,11日  
市川市環境部主催の環境フェアに参加
- ⑤ 第3回工場見学会を開催：平成12年7月6日  
㈱ハイパーサイクルシステムズを見学
- ⑥ 第4回工場見学会を開催：平成12年8月19日  
丸徳興業㈱ こて橋最終処分場（千葉市）を見学
- ⑦ 第3回夏季研修会を開催：平成12年8月19,20日  
千葉県休養ホーム「もとの荘」（本埜村）で実施
- ⑧ 第5回塚田環境フェア2000に参加：  
平成12年9月3日（日）塚田公民館（船橋市）に参加
- ⑨ 企業環境セミナーを開催：平成12年10月20日  
エコメッセちば2000 賛同行事としてシャープ幕張ビルで千葉商工会議所と共催
- ⑩ オーラルケアフェスタ2000に参加：  
平成12年12月2日千葉県歯科医師会主催に参加

#### 2) 活動計画

平成13年度から企画部と事業部を統合して、事業部として一本化して運営することとし、各センターとの共同事業も織り込みながら、多くの人たちに興味を持って頂けるような事業展開を進めて行きたいと考えています。

本会の各種活動につきましては、会員ならびに広く一般の人々や各種団体にも働きかけて、皆様のご協力を得ながら、魅力ある行事を企画、開催し、多くの方々に参加していただけるような方法を折り込みながら、新しい模索を図る年とします。

そのため環境セミナー・研修会や自然観察会の開催、各種イベントへの参加などは前年度を踏襲しますが、少し変化を加える試みを行いながら充実をはかっていきます。

- ① 第7回環境セミナーを開催（定時総会と同日開催）：  
平成13年2月11日 東天紅（中央コミュニティーセンター）（千葉市）で開催済み  
地球温暖化防止対策（省エネナビ取り組み）  
村上利子（環境カウンセラー）

## ISO 14001 認証取得の支援状況

林正徳(環境カウンセラー)

千葉県の産業廃棄物対策

根本久美子(県環境生活部産業廃棄物課副主幹)

- ② 第5回工場見学会を開催：平成13年3月26日  
大平興産㈱の大塚山最終処分場 (ISO 14001 認証取得済) を見学済み
- ③ 第3回自然観察会を開催：平成13年5月～6月を予定  
都市型河川の実態を経験する「川辺のウォーキング」を企画
- ④ 第8回環境セミナーを開催(新入会員歓迎会と同日開催) 平成13年5月13日(日)  
中央コミュニティーセンター(千葉市)で開催  
主題：地球温暖化防止
- ① 千葉県地球温暖化防止活動の推進について  
千葉県環境生活部に講演依頼中
  - ② 地球温暖化問題と解決の可能性  
荒野詰也(環境カウンセラー)
  - ③ 省エネナビ普及活動のさらなる展開  
林正徳(環境カウンセラー)
  - ④ 道路緑化の現状と目指す姿  
田中芳寛(協和コンサルタンツ)
- ⑤ 環境フェアなどに参加：平成13年6月～9月(予定)  
場所、主催、イベント内容は未定  
地方自治体や各種団体が計画中の環境フェアがあれば一報されたい イベント内容や展示パネルなどの事前準備中
- ⑥ 夏季(宿泊)研修会を開催：平成13年8月(予定)  
場所や研修内容は未定(一昨年、昨年とは方法、取り組みの変更を検討中)
- ⑦ エコメッセちば2001 賛同行事 企業環境セミナーを開催：平成13年10月19日(予定)、場所 幕張実績をかさねた EMS 支援センターが中心になって ISO 14001 関係の4回目の企業環境セミナーを充実した内容で開催
- ⑧ 第6回工場見学会を開催：  
平成13年11月～12月、場所や見学内容は未定  
千葉県内に興味ある廃棄物処理施設が多く稼働しており、廃棄物対策センターとの共同で事前に調査して興味ある見学会を企画予定
- ⑨ その他：  
臨時に興味あるイベントが生じたら実施を検討

本会の各種活動への企画参画および参加を期待します。

(事業部長 土田茂通)

## 広報部

## 1) 活動報告

本会の唯一の広報誌である「環境カウンセラーちば」を年4回、各1,200部発行して、発行回数もすでに第11号となりました。

この「環境カウンセラーちば」を各会員に配布するだけでなく、県内外の関係機関や関係者への送付と各種イベントなどでの配布によって、本会の活動状況をPRすることで環境問題への取り組みの啓発にお役にたきたいと考えてきました。

## 2) 活動計画

いままでの佐藤素子広報部長を軸とした広報部のメンバーから新しい広報部メンバーに代わります。

会員相互の認識の共有化とポテンシャルアップを目的に、また外部に向かっては情報発信ができるような広報活動の柱として、従来どおり、年4回、各1,200部の「環境カウンセラーちば」を発行していきたいと思えます。

そのためには多くの会員諸氏に広報部に加わっていただくことと、ふるって多くの記事の寄稿をお願いいたします。

(広報部長 國廣隆紀)

## 情報部

## 活動報告と活動計画

## 【ホームページとメーリングリストの維持管理】

平成12年度は当協議会の活動状況を広くPRするためにホームページを適宜更新しました。

メーリングリストも会員相互の活動のメディアとして、63名の参加者があり、その適正な運用のため「メーリングリストのネチケット」を作成し4月、6月、9月に周知徹底と維持管理をしてきました。

今後もこれらの維持管理に務めます。

## 【環境問題の情報収集】

平成12年度は環境関連の法規の制定、改正情報や他の諸団体の活動などについて、メーリングリストなどを通じて会員に伝達しました。平成13年度も平成12年度同様環境問題の情報収集に努めます。

## 【プロジェクトセンターのメーリングリストの構築】

新たに発足した「地球温暖化防止センター」および「廃棄物対策センター」への情報支援として、参加するメンバーが情報発信者となる参画型メーリングリストを発足させ、その活動の手助けとなるような情報ネットを構築します。

(情報部長 野口康男)

## 環境マネジメントシステム支援センター

昨年は、2月に当センターを発足して以来、無我夢中の1年でした。早速、環境財団から環境マネジメントシステム構築の支援依頼をいただいたことは大変ありがたいと思っています。鈴木さんに主担当として頑張ってもらっていただき、初めての活動として何とかクリアできたのは当センターの大きな支えとなりました。

さらに昨年10月の企業環境セミナーを通じて、新たな支援依頼をいただいたのもうれしい限りです。関係者の皆様の努力に改めて感謝する次第です。

これらの活動が実績として誇り得る立派な成果となればと期待しています。

各商工会議所に配布した当センターの紹介パンフレットも、今後のより濃密な折衝の引き金となり具体的な話につながって行くものと思います。

業務開拓面では県内の自治体とのパイプを太くして、自治体および当該地域内企業の新規認証取得や認証取得後の改善のフォローアップに積極的に協力していくことが重要だと考えます。

その意味で、九十九里 ISO 連絡協議会への積極的参加は重要だと考えています。

また、千葉商工会議所などにおいても何らかの具体的な協力をしていきたいと考えています。

そのほか折に触れて、有効な訪問先の紹介やアドバイスをいただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

当センター内部で研修会を実施していますが、独特の内容と特徴をもつものとして1年間実施してきましたが、転換期に達したと考えています。

実効ある研修会の新しい方向を関係者で模索中ですが、「実例を題材に基本に則った方向性や解決法を議論する場」にしたいと、メンバー各位と模索したいと考えています。

いままで出席頻度の少ないメンバーの方々に時には、出席いただき有益なお話をうかがうような、雰囲気作りも必要かと考えております。

最後にひとつ、この1年間、少数の熱心なメンバーに負担が集中する傾向にありました。

これはなんでも背負い込む方にも問題がありますが、できるだけ多くのメンバーに当センターの研修会や運営連絡会議に出席していただき、運営に参加してもらいたいと考えます。

当センターでは、環境マネジメントの腕を磨き、知り合いをひろげる場として会員の皆様のお役に立つことも重要な役目と思っています。

できるだけ各種会合に出席しやすいように会合予定日を固定し、集中することを試験的に始めました。いろいろなお意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

(センター長 林正徳)

## 地球温暖化防止センター

地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから、まさに人類の生存基盤にかかわる最も重要な環境問題の一つであり、このたび地球温暖化防止センターを設立しました。

### 第一分科会

千葉県温暖化防止活動推進センター（千葉県環境財団）の活動計画、県の温暖化防止推進員の活動内容が具体的にできればそれに沿った活動を展開します。

今の所、活動計画はつぎの内容とします。

- 1) 研修会
- 2) 交流会
- 3) 規約（手引書）の作成

より県民的テーマとして

市民部門：環境家計簿の普及・啓発

事業者部門：中小企業の情報開示の支援

すなわち環境報告および環境会計の作成支援

### 第二分科会

千葉市くらしの会と共同で、「実行委員会」を組織し、千葉市、および省エネルギーセンターの支援を受けて「省エネ・ナビ」メーターを活用した省エネ活動を展開します。

この活動は省エネルギー活動の地球温暖化防止活動における意義をよく認識し、ライフスタイルの簡素化を視野に立つものです。

具体的な活動内容としては、

#### ○ 学校関連

- 1) 小・中学校 10校の児童・生徒の意識昂揚
- 2) 夏休みに「エネルギー問題体験学習教室」の開催

#### ○ 一般市民関連

- 1) 千葉市内の各家庭における省エネ活動推進
- 2) 省エネ活動推進の指導者の養成
- 3) ニュースの発行と省エネ相談室の開設

などを計画しています。

(センター長 荒野詰也)

おねがい

### 部またはプロジェクトセンターに所属されたし

今回の規約改正で会員みなさんに参画意識をもってもらうために「正会員はいずれかの部またはプロジェクトセンターに属し、会務の遂行にあたる。」となりました。ぜひご希望の部またはプロジェクトセンターを選んでそれぞれの部長およびセンター長にご連絡ください。

## 廃棄物対策センター

### 1) 活動方針

最近話題の資源循環型社会の構築のための資源の有効活用、廃棄物の減量や深刻になりつつある廃棄物問題に具体的に取り組もうと「廃棄物対策センター」を設立しました。

平成13年度は、つぎのような方針で活動したいと思います。

1. 県および各市町の環境問題の主管部署および出先機関、産業廃棄物協会などと連絡を密にし、廃棄物処理およびリサイクル問題について情報収集する。
2. 一般廃棄物、産業廃棄物の排出内容の実態を確認し、認識を深める。
3. 廃棄物不法投棄監視員とタイアップし、廃棄物の不法投棄の実態を確認する。
4. 小中学生を対象に廃棄物講習会と映写会（ビデオ）を開催し、廃棄物処理について指導する。

### 2) 計画内容

1. 県環境生活部の産業廃棄物課と一般廃棄物課と連絡会を開催する。
2. 千葉県環境研究センターと連絡を密にする。
3. 千葉市の新内陸最終処分場および焼却炉を見学する。
4. 千葉県産業廃棄物協会と連絡会を開催する。
5. 夏休みと冬休みをを利用して小中学生を対象に廃棄物講習会と映写会（ビデオ）を開催
6. 県および各市町の廃棄物不法投棄監視員とタイアップし、廃棄物の不法投棄の実態調査を行う。
7. 新日鉄株君津製鐵所の廃プラ・コークス炉リサイクル設備を見学する。
8. タケエイ（四街道市）の建築廃材の処理設備を見学する。

このような活動を展開しようと考えていますので、本会の会員で興味をお持ちの方は、ぜひ廃棄物対策センターに加入、参加をお待ちしています。

（センター長 大山長七郎）

## 会員紹介（その1）

記載順：出身地。経歴。現職。取得資格。得意事項。

村上 利子 (MURAKAMI TOSHIKO) 市民部門・運営委員・会長、事務局長・千葉市



1973年～千葉県消費者団体連絡協議会理事、1979年～同会長、1979年千葉市くらしの会設立同会長現在にいたる、1979年国民生活センター消費生活相談員養成講座卒、1989年くらしの相談コーナー設立、1993年(財)シニア・ルネッサンスのアドバイザーになる、千葉県環境審議会委員 水質部会にて水の浄化対策（家庭）に活動、水質早見表作成配布、廃棄物学会で発表（大阪）、千葉県ものを大切に運動千葉県会議 副会長。消費生活相談員。省エネ、省資源、水について。

田中 茂

(TANAKA SHIGERU) 市民部門・運営委員・副会長・千葉市



熊谷組 政府開発援助プロジェクト（海外）、同社副調査役。(財)日本エネルギー経済研究所 客員研究員、国際協力事業団シニアボランティア専門員、(財)オイスカインターナショナル東京支部幹事、千葉市エコリーダークラブ会長、(財)日本環境協会・子ども環境相談室相談員。測量士、自然観察指導員、国際技術協力コンサルタント、日本ネイチャーゲーム指導員。廃棄物、土壌、地下水、エネルギー、環境教育、自然観察、森林保全、環境保全と土木開発計画との調和。

野口 康男 (NOGUCHI YASUO) 事業者部門・運営委員・副会長、情報部長・千葉市



佐賀県。1963～1998年三菱製鋼㈱に勤務。圧延および製鋼設備のメンテナンスを担当。鉱山、隧道工事に使用される削岩機用ロッド、中空鋼の製造、技術サービスを担当し製品・品質管理では、鋼材の成分を含む特性と製品寿命、破断面解析による折損原因調査に従事。環境関係は東京・宇都宮製作所にて環境管理全般を担当。含油廃水処理装置、土壌脱臭装置の開発。公害防止管理者（大気・水質・騒音・振動）。千葉県発明研究所所員。

國廣 隆紀 (KUNIHIRO TAKATOSHI) 事業者部門・運営委員・副会長、広報部長・袖ヶ浦市



山口県。1959～2000年出光興産㈱勤務 燃料油の品質研究、石油精製装置の運転・解析、燃料油および潤滑油基油の精製研究、潤滑油の分析・製品開発、品質管理、安全衛生管理、環境管理に従事。2001年國廣技術士事務所開設。技術士（化学部門）、ISO9001主任審査員、ISO14001審査員補、労働安全コンサルタント（化学）、エネルギー管理士、高圧ガス（甲種）、危険物（甲種）。省エネ、ISOシステム構築、製品安全と化学物質の法対応、環境対策および改善。

鈴木 茂夫 (SUZUKI SHIGEO) 事業者部門・運営委員・総務部長・我孫子市



神奈川県。NECグループ企業にて製品設計・生産技術・製造・公害防止・環境マネジメント業務を担当。EMSの構築および運用に関しては、諸業務全般を専任ノウハウを習得。第一種作業環境測定士、公害防止管理者、内部環境監査員養成講座修了、環境活動評価プログラム普及活動協力者。生活協同組合にて環境監査委員長・内部環境監査委員。表千家教授。現在おもちゃドクター研修中、将来おもちゃ病院の開設を目指す。

**土田 茂通** (TSUCHIDA SHIGEMICHI) 事業者部門・運営委員・事業部長・松戸市

香川県。専門技術は機械で、重機械メーカーに勤務し、産業機械装置設計(集塵装置全般と石炭、非鉄金属、鉄鋼、セメントの各分野の装置、)やプラント設計とプロジェクトマネージャー(中国、ソ連、東南アジアほか)で40年間従事。現在、環境問題のボーリングに切り口を求めて、当協会のお手伝い以外に松戸ケナフの会の理事・事務局長、東葛飾福祉会の理事・環境担当でボランティア活動を実践中。また県の環境学習に多く参加中。

**林 正徳** (HAYASHI MASANORI) 事業者部門・運営委員・EMS支援センター長・千葉市

山口県。1958年昭和電工(株)入社、1968年日本燐酸(株)出向、1995年まで生産管理および改善計画立案に従事、1995年以降化学物質安全対策、エネルギー使用合理化対策に従事。(財)日本環境協会・こども環境相談室相談員。技術士(化学部門)、エネルギー管理士(熱・電気)、環境計量士、公害防止管理者(大気・水質・騒音)。EMS構築支援。

**荒野 皓也** (KOHYA TETSUYA) 事業者部門・運営委員・地球温暖化防止センター長・千葉市

茨城県。1958年東北大学工学部機械工学科卒業、三菱電機(株)静岡製作所、群馬製作所、生活システム研究所勤務。(有)荒野技研代表。工学博士、技術士(機械部門)、中小企業診断士、労働安全コンサルタント(機械)、特許流通アドバイザー、ISO9001審査員、ISO14001審査員、CMC(国際マネジメントコンサルタント協会認定)、地球温暖化防止推進員。開発管理、設計管理、品質管理、環境管理、PL管理、エネルギー管理、マーケティング、熱力学、冷凍冷蔵空調。

**大山 長七郎** (OHYAMA CHOSHICHIRO) 市民・事業者部門・運営委員・廃棄物対策センター長、

広報部部長・四街道市

千葉県。新日本製鐵(株)勤務 圧延、メッキ、技術サービス、表面処理研究、環境管理(廃棄物処理)担当。(財)クリーン・ジャパン・センター(CJC)および(株)市川環境エンジニアリング出向(現在・顧問)。CJC、千葉県、埼玉県、市川市、四街道市、白井町、中小企業総合大学校の事業に協力。公害防止主任管理者。廃棄物処理再資源化、特定フロン破壊処理、地球温暖化、公害防止、労働災害防止。

**丸島 忠夫** (MARUSHIMA TADAO) 事業者部門・運営委員・広報部副部長・茂原市

千葉県：1963～2000東京電力(株)千葉支店勤務 県内送電線の保守管理に従事、労組専従役員として東電労組千葉支部書記長、東電労組本部教育宣伝局長、全国電力総連副事務局長としてプロスペクト21研究会を立ち上げ「21世紀安心社会への提言」、1997年千葉支店環境担当に就任しISO14001のマネジメントシステムを担当して認証取得。

**宮村 啓二** (MIYAMURA KEIJI) 事業者部門・運営委員・事業部副部長・市川市

兵庫県。古河電気工業(株)勤務 非鉄金属加工、工場自動化計画の販売、業務用リターナブルビン(粉流体・液体)の普及販売。現在、技術コンサルタント 環境省環境モニター、科学技術専門出版社メンバー。技術士(金属部門)、公害防止管理者(水質・大気第一種)。行政・事業者・市民間の連絡会議メンバーや審議委員、市民・事業者との環境学習。

**服部 達雄** (HATTORI TATSUO) 事業者・市民部門・運営委員・事業部副部長・千葉市

栃木県。ガス燃焼設備の省エネルギー技術、NOx低減技術の研究開発に長く従事。最近では地球環境問題の研究に傾注し、太陽、水素などの新エネルギーに関する技術研究、地球温暖化対策としての二酸化炭素の固定、大規模緑化の調査研究に取り組み、植林ボランティア活動の推進を実践。技術士(機械部門および化学部門)、エネルギー管理士(熱)。

**廣川 一男** (HIROKAWA KAZUO) 事業者部門・監事・松戸市

新潟県。小学校1～6年は満州のハルビン近郊。1958年東京工業大学理工学部化学工学課程卒業、1958年東洋高圧工業(株)入社、1968年三井東圧化学(株)合併により転入、1977年東洋エンジニアリング(株)入社、1987年(株)プロテックス入社、研究段階からの化学工場建設(6件事業化)。1993年廣川産業・技術研究所設立し現在に至る。技術士(化学部門)、エネルギー管理士(熱)、労働安全コンサルタント(化学)、公害防止管理者。石炭、石油、公害、工場・経営診断、省エネ。

**品田 芳二郎** (SHINADA YOSHIJIRO) 事業者部門・監事・千葉市

新潟県。1947～1956年通産省工業技術院地質調査所石油課、1956～1976年関東天然瓦斯開発(株)、1976～1995年関東建設(株)地質調査部門、1995～2001年(株)テクノアース勤務。技術士(応用理学部門)、1966～1972年千葉大学非常勤講師(応用地質学)。1988年から地質・地下水汚染調査と除去対策工事に従事し、これに関する講師、論文多数、その他専門として地質調査、地下水および温泉調査。

本号から会員紹介を連載します。各会員は、公開可能な個人情報として、出身地、経歴、現職、環境カウンセラー以外の取得資格、得意事項を200字以内にまとめ、顔写真とともに國廣広報部長に提出願います。

おねがい

★協議会登録名簿の整備をします

本会の会員は登録名簿を提出していただき、会員名簿の整備や会員相互の理解、協力に使用することになっています。しかし、約半数の会員しか提出されていません。

未提出の方は、記入用紙をこの広報と共に同封しますので、記入、顔写真添付のうえ、鈴木総務部長に送付願います。

★広報へのご意見、原稿の募集

広報へのご意見、環境カウンセリング実施例、役に立つ環境情報などをお寄せ下さい。

★賛助会員募集

環境カウンセラー千葉県協議会に賛同する個人、団体の賛助会員を募集しています。

会費：個人1口3,000円 団体1口10,000円

★広告募集

本広報に広告を掲載しませんか。環境カウンセラー千葉県協議会会員、準会員および会員等の所属する事業所の広告にご利用下さい。

標準利用料金：A4、1ページ 10,000円

A4、6分の1ページ 2,000円

お知らせ

★当会メーリングリストのお知らせ

当協議会会員のメーリングリストがあります。当会の情報伝達の能率、経費節減の観点からも会員の登録をお願いします。(会員のみ)

申込みは [arimatomiho@ma2.justnet.ne.jp](mailto:arimatomiho@ma2.justnet.ne.jp)

第8回環境セミナー開催のお知らせ

来る5月13日(日)13時から、千葉市中央コミュニティセンターの音楽室で第8回環境セミナーを開催いたします。

内容は最近注目度が高い地球温暖化防止対策をメインテーマとし、最新の情報と目指す方向性について専門家に講演していただきます。

- ① 千葉県地球温暖化防止活動の推進について  
千葉県環境生活部に講演依頼中
- ② 地球温暖化問題と解決の可能性  
荒野喆也(環境カウンセラー)
- ③ 省エネナビ普及活動のさらなる展開  
林正徳(環境カウンセラー)
- ④ 道路緑化の現状と目指す姿  
田中芳寛(協和コンサルタンツ)

質疑応答時間も十分とって価値ある環境セミナーといたします。多くの方々の参加をお待ちします。

(環境セミナー参加費 会員500円、非会員800円 当日集金)

なお、この環境セミナーのあと、17時30分から千葉そごう隣のセンシティタワー22Fのロゼリアンで2000年度登録になられた環境カウンセラーの方々の歓迎会を行いますので、この歓迎会にもふるって参加をお願いします。

(歓迎会参加費 4,500円 当日集金)

ニュース

「環境カウンセラー全国連合会」設立の動き

環境カウンセラーは千葉県協議会のようにほぼ都道府県ごとに組織化をしていますが、これら組織の親睦と連携を密にして環境保全活動を全国的に取り組むため、「環境カウンセラー全国連合会」を設立することになり、近々設立総会が開催されます。

千葉県協議会もそのメンバーとして加盟し、活動することにいたしました。お金の面では、会費として年額5,000円に各組織の会員1名あたり年額200円を加算したものになりそうです。

環境カウンセラー千葉県協議会会報

第12号 (発行日 2001年4月20日)

発行：環境カウンセラー千葉県協議会 (会員数：116名 賛助会員：13名)

ホームページアドレス：<http://www2.justnet.ne.jp/~arimatomiho/>

事務局：千葉市若葉区桜木町6-2-7-2 村上利子方 Tel&Fax 043-231-0738

郵便振替口座：00110-5-34692 (会費未納の会員は、こちらに入金して下さい。)

編集：広報部 國廣隆紀、丸島忠夫、大山長七郎、松本源寿、二宮憲、辻川毅

Tel&Fax 0438-63-6851、E-Mail [pxz04373@nifty.ne.jp](mailto:pxz04373@nifty.ne.jp) (記事の寄稿はこちらに)

(古紙100%再生紙使用)